

# 令和3年度 学校評価シート

学校名： 有田中央高等学校 学校長名： 戸川 しをり

めざす学校像 育てたい生徒像	「地域社会の中核を担う若者を育てる」 1 明るい家庭を築き、地域の活性化に貢献する若者 2 職業人として地域の産業を支え、地域の発展に尽くす若者 3 地域の行事や活動に参画し、地域のつながりや絆づくりに励む若者
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 知識基盤社会の中で、生きていくために必要となる学力獲得に繋がる学習指導の構築と、社会の中核を担う若者の育成に直結したキャリア教育の充実 2 自らの将来や社会全体を意識した行動規範の確立と自他の可能性を尊重し合い、希望に溢れた学び舎の創造 3 教員の資質向上を伴った組織的な学校運営と、学校外の活力をいかした教育活動の充実による学校力の質的転換の着実な推進

中期的な目標	・アクティブラーニングの研究、実践を進め、生徒の主体性や協働性を促し、学びの質を高める。 ・「高等学校における通級による指導」の研究開発を進め、特別支援の観点からの学習指導を確立する。 ・学び直しや基礎補習等の取組で、基礎学力の定着を図るとともに、学力上位層の自己実現に向けた取組の充実を図る。 ・地域の行政や企業、他校種の学校や関係性のある大学とその特徴に合った取組を充実させることで、地域と協働した学校作りを目指す。
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	職員会議において個々の課題として思考評価すると共に、学校運営協議会で評価したものを、学校HP等で公表する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 3 1 日 現 在 )		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	教員の授業力向上や授業規律の確立への意識は高い。しかし、基礎学力の定着や学力上位層の学力向上等に依然として課題がある。授業改善の取組を進め、主体的な学びを促す授業を確立し、課題の克服につなげていく必要がある。 キャリア教育においては、3年間を見通したキャリア教育の編成等の整備が進み、高い就職内定率を達成するなど実績を出している。しかし、中途退学や卒業後の早期離職者を減少させるための取組として、生徒に生き方・在り方を深めさせ、主体性を育む取組や指導等の更なる充実が必要である。	「通級による指導」の研究開発に組織的に取り組み、特別支援の観点から生徒の課題や発達段階に応じた指導がなされているか。また、それらの取組が、具体的な成果につながり、生徒の自己実現につながっているか。	学習面の課題克服に向け、「通級による指導」「アクティブ・ラーニング型授業」の研究・開発授業改善に取組む、授業力向上を図る。 「学び直し」の授業展開等基礎学力の定着を図る。 意欲的な生徒への学力向上を図る。 体験的学習の充実による、生き方・在り方の深化	全教職員が研究・公開授業を2回以上実施 授業改善PTをより機能させ、自主研修として校内研修・研究協議会を年6回以上実施 「学び直し」の自主教材の活用 学力上位層の一般入試、公募制推薦入試への挑戦(進学希望者の10%以上) 1年でのインターンシップ実施100%と、農業・福祉において実習を1回以上行う。	・2月に「公開授業週間」として、若手職員の困り感や様々な学校改善PTとして立ち上げた「紀文」を中心に「授業改善」に向けての職員の意識改革に取り組んだ。 ・2月8日に「学習成果発表会」を1・2年生徒を対象に開き、系列・教科・学年での学習成果の向上に取り組んだ。 ・学力向上に向けて「学び直し」の自主教材を活用し、第1学年において個別補習の充実を図り、基礎学力の充実を図ることで自己実現に向けての意識を高めた。 ・本年度はコロナ禍によりインターンシップを実施できなかった	B	・基礎学力の定着を目標とした教育方法を研究し、学習の習慣と学力の定着に結びつける。また、そのための十分な時間を確保していく。 ・伸長クラスに向けた取り組みについて、自己実現に向けた目標を達成するために、補習等の効果的な教育的手法を研究していく。 ・全職員に向けて本校進路キャリア教育への理解と参画を促すため、横断的分掌再編に取り組む。 ・デュアルシステムも取り入れた有田中央版職業体験を設定する。 ・定期テストの在り方も含めた評価方法の研究。
2	生徒理解を深め、改善されるまであきらめず徹底する生徒指導と、自己有用感を高める生徒支援を両輪とした取組により、学校生活に前向きな生徒が多く育ち、学校全体の活力も高まっている。 多岐にわたる深刻な課題を抱えた生徒が年々増え、教員一人ひとりの指導力の向上や組織的な対応の更なる充実が求められる。また、地域社会に貢献する若者を育てる為には、生徒の力を信じ自主性を重んじた活動を支持し、生徒個々の自立を目指す教育活動を充実していく必要がある。	教員一人ひとりが生徒と真摯に向き合い、生徒の課題克服に向けた実効性のある指導を行っているか。 また、組織として対応し、生徒個々の自立を促す事ができたか。	身だしなみ指導の徹底を図る。 自己有用感や共生を育む指導の充実を図る。 リーダー育成及び部活動の活性化を図る。 生徒の課題への組織的対応力の向上を目指す。	「スカートひざ丈」、「化粧一掃」「着こなし方」の徹底 生き方・在り方を深めることに繋がる具体的な教育活動の実施 部活動参加率の60%以上を目標 ケース会議の即時開催及び指導方針の明確化	・生徒指導アSEMBリーは定期的開催できなかったが、身だしなみ指導は担任を中心に徹底できた。 ・本年度はコロナ禍もあり、地域協育会総会や「品評会」等、社会との関わりや自己の在り方を考える取組ができなかった。2学期以降部分的だが即売会や文化祭、地域の清掃活動に参加し自主性の涵養に取り組んだ。 ・今年度も支援・指導が必要な場合に即時ケース会議を行い対応すると共に、自己・他者理解を深めるための取組を多く取り入れ、生徒・保護者との信頼の人間関係構築を図った。	B	・全ての教職員が責任を持って生徒を指導していく体制と生徒理解を基盤とする指導のさらなる充実を図る。生徒支援の手法と絡めて、生徒に自己有用感を育てていく。 ・生徒の自主的な活動を支援し、教員からの働きかけによる「生き方・在り方」を深める教育活動を展開する。 ・生徒誰もがリーダーとなり、主体的に動き、活躍できるような場面を多く設定する。 ・ケース会議の運営にスピード化を図り、早期発見・早期対応に取り組む。
3	授業力向上等の教員の資質向上につながるOJTが機能し、教職員の協働性・同僚性が向上するとともに、地域との連携が進み、一定の評価が得られるようになった。学校の情報発信力をさらに強化し、保護者や外部の力を活用した教育活動に向けた質的向上を引き続き図る必要がある。	教職員の協働性・同僚性の向上と、地域との連携を主体的に進めているか。	農業・福祉に代表される総合学科の各分野と、ボランティアや特別活動を基盤として活動を広げていくことで、地域に本校の魅力を伝えるとともに、本校の教育力についての理解を更に深めてもらう中で、地域の中核を担う若者を地域と共に育てる。	各系列の取組が地域や外部機関と連携し、特色ある魅力的なものに高められたか。 地域協育会が役割を果たし、取組を終了した後、学校運営協議会を中心に主体的に地域と一緒に取組を進められたか。	・きのくにコミュニティスクールとして学校運営協議会を年3回実施した。「学校再編」「地域協育会」等の今後について、様々な見地から意見をいただいた。 ・「地域協育会」については、今年度も活動できなかった。	B	・「地域協育会」を発展的に再構築していく必要がある。 ・学校運営協議会を中心に、有田中央高校の新たな地域連携のシステムを構築する。

学校関係者からの意見・要望・評価等	○授業改善の取組については、概ね評価を得ている。とりわけ、特別支援教育の観点からの指導の研究や工夫を行い、分かりやすい授業に努めていることについては高い評価を得ている。通級指導についても学校独自の形を確立している。 ○県立高等学校再編において、有田地区から他の地域に多くの生徒が流出している現状はあるが、地域産業の活性と本県の未来を見通した中で本校のミッションを今一度再確認し、今後どのように変身していかなければならないかを自覚し、実行していくことがより一層、重要となる。 ○進路キャリア教育については、就職内定率を100%とする事ができた。生徒の自己実現に向けて、さらなる基礎学力の定着と、個に応じた指導支援の充実が必要と思われる。 ○本校のミッション「地域社会の中核を担う若者を育てる」に基づき、身だしなみについて徹底した指導に取り組んでいる。保護者の理解も得て、挨拶・交通マナー等も含め、生徒の活動や行事についても、年々活発になっている。今後は、参加するだけでなく、企画や運営にも積極的に関わり、自己の力を伸ばして欲しい。一方で、部活動の活性化等でさらなる充実を求める要望もある。 ○地域の中で学校をとらえたとき、やはり農業と福祉教育の更なる充実を期待する。農業においては近畿大学や県果樹試験場、県農林大学校等との連携を始めたが、今後さらに深める中で地域の教育資産に育ててほしい。福祉においては、コロナ禍の影響で困難さはあったが、事業所との連携を前進させ、地元で働き生くる子を育ててほしい。 ○課題を抱えた生徒や不登校の生徒にきめ細かく指導している。先生方の教育に対する熱意で救われている生徒もいる。今後も有田中央高校の指導の在り方を変えずに頑張りたい。
-------------------	---